高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

令和３年度

高志の国文学館 年報

令和３年度

目　次

Ⅰ　令和３年度のあゆみ

令和３年度のあゆみ…… 4

Ⅱ　事業内容

1　展示活動…… 6

2　資料概況…… 20

3　教育・普及事業…… 21

4　高志の国文学館友の会…… 30

Ⅲ　管理・運営

1　利用状況…… 32

2　施設の概要…… 34

3　機構…… 35

4　組織…… 36

Ⅳ　資料

沿革…… 38

Ⅴ　関係法令

関係法令…… 42

Ⅰ　令和３年度のあゆみ

令和3年度　高志の国文学館のあゆみ

年　月　日	事　　項
令和３年４月４日	観桜の集い2021
４月29日	**企画展「映画監督　本木克英 展」（６月21日まで）**
５月８日	文学講座（大学連携シリーズ・ヘルン文庫特別講座）（７月４日まで　全５回）
６月18日	クローズアップコーナー
	「富山の詩人たち、詩人たちの富山―富山文学地図(3)」（令和４年６月20日まで）
同日	特別コレクション室
	「翁久允と没後50年　川崎順二・小谷契月」（令和３年12月13日まで）
７月３日	第２回大伴家持文学賞及び第２回高志の国詩歌賞贈呈式
７月10日	**企画展「まど･みちおのうちゅう―「ぞうさん」の詩人からの手紙」（10月11日まで）**
７月18日	文芸サロン（主催：日本ペンクラブ富山の会）（令和４年３月13日まで　全３回）
７月25日	大伴家持文学賞記念　詩の集い
７月31日	読書感想文サポート講座
８月７日	第８回サブカルチャー講座―アフレコチャレンジ教室（中止）
８月21日	第８回サブカルチャー講座―イラスト体験教室（中止）
９月19日	観月の集い2021（中止）
10月23日	文学講座（郷土と文化シリーズ）（12月12日まで　全３回）
10月24日	なでしこ忌句会
10月30日	**企画展「太宰 治　創作の舞台裏 展」（12月20日まで）**
12月５日	高志プロジェクト令和２年度認定者による研究発表
12月９日	ミュージアムコンサート
12月10日	朗読と音楽の夕べ2021（３月５日まで　全３回）
12月17日	没後10年　辺見じゅん特集―近代文学の名著・直筆コレクション（前期）
	（令和４年４月３日まで）
令和４年１月16日	**企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」（６月６日まで）**
	（第１期　３月21日まで　第２期　３月30日～６月６日まで）
１月22日	文学講座（越中万葉・詩歌シリーズ）（３月20日まで　全３回）
２月13日	令和　梅花の宴

II 事業内容

1．展示活動

□常設展示

概　要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介しています。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介しています。平成29年４月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設されました。

＜ふるさと文学の回廊＞

富山県ゆかりの代表的な文学者25人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した４つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介しました。

「ゆかりの文学者たち」コーナー

＜ふるさと文学の蔵①＞

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示しました。

クローズアップコーナー

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵②＞

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵③＞

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介しています。

「ゆかりの漫画家」コーナー

特別コレクション室

□展示構成

令和4年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要	
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索	
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介	
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ
		源氏鶏太 堀田善衛 柏原兵三 木崎さと子 宮本　輝 辺見じゅん 久世光彦	筏井竹の門　瀧口修造 岩倉政治　田中冬二 遠藤和子　田部重治 大井冷光　畷　文兵 翁　久充　新田次郎 角川源義　前田普羅 小寺菊子　三島霜川 佐伯彰一　横山源之助 高島　高　渡辺順三
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡	
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示	
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置	
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介	
	「令和」記念コーナー	新元号「令和」を記念して設置	
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介	
	クローズアップコーナー	「「戦後の富山俳壇」富山文学地図(2)」／ 「富山の詩人たち、詩人たちの富山―富山文学地図(3)」	
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介	
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄Ⓐ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原　秀則 花咲アキラ	
	特別コレクション室	「翁久允と没後50年　川崎順二・小谷契月」／ 「没後10年 辺見じゅん特集―近代文学の名著・直筆コレクション」	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎	
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰譲吉 佐伯宗義 松村謙三 馬場はる	

（注1）ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。
（注2）ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。令和3年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

「富山の詩人たち、詩人たちの富山―富山文学地図(3)」

会　　期／令和３年６月18日㈮～
令和４年６月20日㈰
担　　当／永井　清、生田美秋
出品点数／60点

趣旨・総括

富山県内の詩の創作活動は、文庫派・河井酔茗の浪漫的な詩の影響を受けて明治時代にスタートし、大正、昭和、そして戦後へと続く県内各地の活発な同人誌活動によって定着していった。富山の風土に根ざした叙情性豊かな詩の系譜は現代詩に引き継がれ、田中冬二、高島　高、萩野卓司らの登場によって実を結んでいった。

田中冬二（1894～1980）は、昭和４年に処女詩集『青い夜道』で父の故郷黒部を「ふるさと」の原風景としてうたい「郷愁の詩人」と呼ばれた。彼は、越中をふるさととし、父の生家のある生地を愛した。高島　高（1910～1955）は、昭和10年、萩原朔太郎、北川冬彦選の詩コンクールで「北方の詩」が入選し、中央詩壇の注目を集めた。その後郷里の滑川に帰り、医師を続けながら『北の貌』（昭和25年）を発表し、独自の詩の世界を築きあげていった。没後『続･北方の詩』（昭和30年）が刊行された。

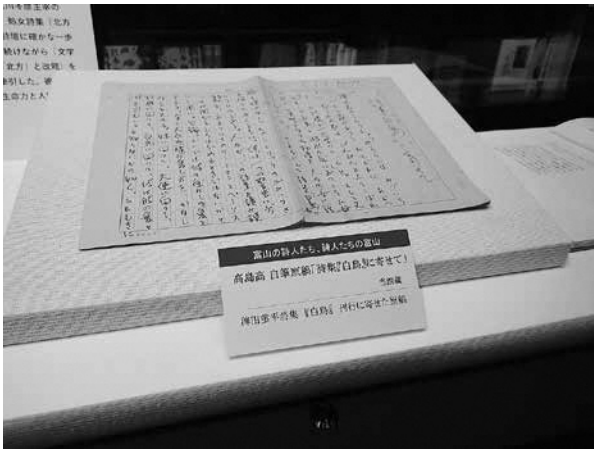
昭和39年に富山現代詩人会を結成し、初代会長となった萩野卓司（1919～1986）は、萩野賞を設けるなど富山県の詩壇の発展に貢献した。富山現代詩人会はその後、稗田菫平、高島順吾、青塚与市、池田瑛子、高橋修宏が会長を務め、平成１７年には富山県詩人協会に名称を変更し現在にいたる。

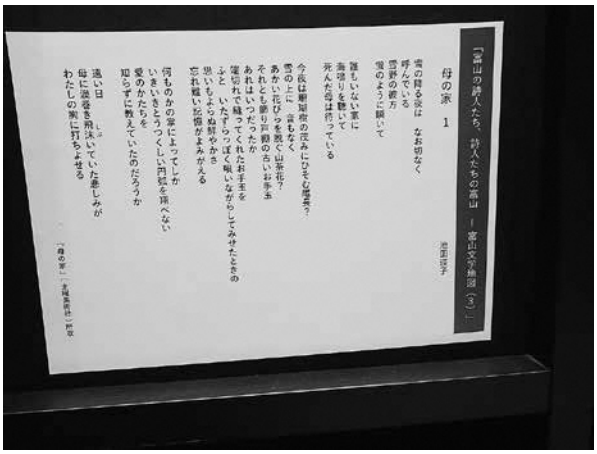
富山県は、シュルレアリスムに関する詩論や詩作を発表し前衛芸術運動をリードした富山市大塚出身の瀧口修造（1903～1979）のようなユニークな詩人も輩出している。

【主な展示構成】

富山の詩人たち（１）
田中冬二、瀧口修造、高島高
富山県詩人協会の活動
富山の詩人たち（２）
富山を描いた主な詩集と詩誌
富山の詩人たち（３）
最初の富山の女性詩人　方等みゆきと「女人詩」
井上靖文学の出発を促した富山
民謡詩人を輩出した富山　中山輝「詩と民謡」
詩人　堀田善衛

戦後の詩人たちと代表的な詩誌


高島高　自筆原稿「詩集『白鳥』に寄せて」



池田瑛子「母の家１」

□特別コレクション室

「翁久允と没後 50 年　川崎順二・小谷契月」

会　　期／令和３年６月18日㈮～12月13日㈪
担　　当／小林加代子
出品点数／14点

趣旨・総括

おわら風の盆は、毎年、富山市八尾で９月１日から３日にかけて開催され、多くの人々を魅了し続けています。近世から行われてきたおわら節は、明治末期に改良運動が始まり、八尾の医師で私財を投じてその発展に尽くした川崎順二の尽力によって、大きな転換期を迎えました。昭和４年（1929）には、川崎順二を中心に、「越中八尾民謡おわら保存会」が発足します。

翁久允（1888～1973）は、おわら保存会設立総会に招かれて東京から出席した一人でした。翁は、昭和４年当時、『週刊朝日』の編集に携わっていました。昭和11年（1936）には郷里富山で郷土文化誌『高志人』を創刊、主宰します。翁は『高志人』創刊の頃から戦後に至るまで多くの文人たちを八尾へ案内しました。川崎は彼らを自邸に招いてもてなし、文人たちはおわら歌詞を新作し、また『高志人』に八尾やおわらについての文章を寄稿しました。

おわら風の盆の発展は、川崎順二を中心に、民謡詩人の小谷契月や長谷川剣星、画家の林秋路をはじめ、八尾の町の人々によって支えられてきました。そして、彼らとの交友を通じての翁久允の協力が、その歩みとともにありました。

現在、高志の国文学館では、公益財団法人翁久允財団の協力を得て、翁久允旧蔵資料の調査を行っています。川崎順二（1898～1971）、小谷契月（1902～1971）の没後50年を機に、川崎順二と翁久允の交友を中心に、小谷契月との関わりについてもふれながら、翁久允の手元に残された書簡や記録、八尾を訪れた文人たちの原稿などを、おわら歌詞とともに紹介しました。

展示風景

「没後 10 年　辺見じゅん特集 ―近代文学の名著・直筆コレクション」

会　　期／令和３年12月17日㈮～
令和４年６月20日㈪
前期：令和３年12月17日㈮～令和４年４月３日㈰
後期：令和４年４月６日㈬～６月20日㈪
担　　当／綿引香織
出品点数／前期28点、後期27点
趣旨・総括

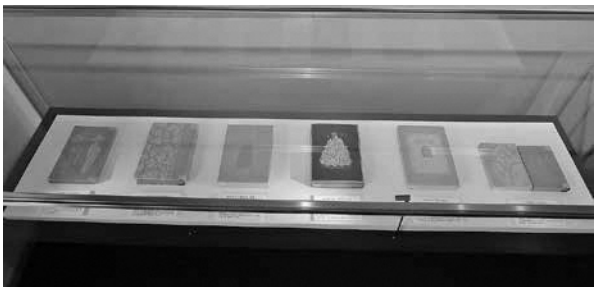
歌人・作家 辺見じゅん（1939～2011）の没後10年にあたって開催した本展では、辺見のコレクションのなかから、日本近代文学史を彩る著名作家たちの初版本や直筆物などをとりあげました。

愛書家としても知られる辺見は、明治・大正・昭和の出版文化の水準の高さを示す本の数々を蒐集しました。角川書店の創業者の娘であり、自身でも幻戯書房を設立して出版業にたずさわっていた辺見は、本の内容とともに造本の美しさにもこだわりをもっていました。初版本、希少本のコレクションには、その審美眼の一端をうかがうことができます。また、コレクションのなかには、自身の作品にかかわりの深い作家の著書や、歌人・俳人の自筆資料もあります。

蒐集者自身の好みや関心のありかを反映したこれらの貴重な資料の数々を、その造本の美しさとともにご鑑賞いただきました。

【主な展示資料】

島崎藤村『若菜集』、萩原朔太郎『月に吠える』、与謝野晶子『みだれ髪』、堀辰雄『聖家族』など



展示風景（前期）

⑴企画展「映画監督　本木克英 展」

会　　期／令和３年４月29日㈰・㊗～
６月21日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、富山テレビ放送
特別協力／本木克英
協　　力／エース・プロダクション、
富山県ロケーションオフィス
担　　当／生田美秋（総括）　大川原竜一（主務）
観覧者数／2,037人
出品点数／266点（パネル・バナーを含む）
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

富山県出身の映画監督・本木克英。「釣りバカ日誌」シリーズや「超高速！参勤交代」など話題のエンタテインメント作品をつぎつぎに撮る、いま最も期待を集める映画監督のひとりです。

本企画展は、本木監督のエンタテインメント映画の世界を、代表作を通じて紹介。また、人情喜劇を数多く手がけてきた監督の映画力についてインタビュー映像をまじえてせまりました。

文学館ロビーでは、エントランス展示として来館者が映画のワンシーンを味わえるように、監督のデビュー作品「てなもんや商社」に登場した鯉のぼりと、映画「大コメ騒動」の撮影で実際に使用した艀（ハシケ）を出展しました。本船には乗船でき、ここを撮影スポットとしました。また、映画「大コメ騒動」に出演した俳優の左時枝さんや立川志の輔さんたちが、監督との思い出や素顔を語るスペシャルインタビュー動画（エース・プロダクション制作）を上映。くわえて企画展オリジナルの監督のインタビュー映像を制作・上映し、監督自身に、映画づくりに対するこだわりや、本展覧会にあたって来館者へのメッセージを語っていただきました。

企画展示室内においては、「大コメ騒動」「空飛ぶタイヤ」「超高速！参勤交代」「釣りバカ日誌13」という富山県とゆかりのある４作品をとりあげ、それらの台本や絵コンテ、デザイン画、ロケ写真、衣裳・小道具などの映画製作にかかわる資料を展示･公開しました。

映画「大コメ騒動」コーナーでは、観覧者に体感しながら本展を楽しんでいただくため、劇中に登場する米屋「鷲田商店」を再現しました。また主人公松浦いと役の井上真央さんと、清んさのおばば役の室井滋さんが身につけた衣装を展観。映画「超高速！参勤交代」コーナーでは、俳優の西村まさ彦さんからのコメントを掲示するとともに、松竹撮影所より借用した、湯長谷藩主内藤政醇（佐々木蔵之介）の羽織・野袴と雲隠段蔵（伊原剛志）の大扇子などを、また映画「釣りバカ日誌13」コーナーでは、ホテル黒部での宴会シーンでハマちゃん（西田敏行）が歌った「ホタルイカメンコ」の歌詞や、松竹株式会社より借用した鈴木建設の社章と社員証を展示することができました。

会期中にはトークイベントを開催し、俳優の室井滋さんをゲストにむかえて、監督と映画「大コメ騒動」などについてお話いただきました。また、企画展にあわせて「富山県を舞台にしたこんな映画が見たい」をテーマに、映画のストーリー（あらすじ）を募集。監督が選考した優秀作品を、会期中の展示会場および当館のホームページ上に掲載しました。一方で、優秀作者に参加をお願いしていた監督との対談イベントは、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大にともない発令された「富山県感染拡大特別警報」によるイベントの自粛要請をうけて、残念ながらトークセッション「富山からエンタテインメントを発信するには」とともに中止となりました。

エントランス展示　映画「大コメ騒動」で使用した艀（ハシケ）

映画「大コメ騒動」コーナー　展示風景

映画「釣りバカ日誌 13」コーナー　展示風景
（奥は、映画「超高速！参勤交代」コーナー）

開会式にて（本木克英監督）

トークイベント　本木克英監督×室井　滋　氏

□関連行事

① 本木克英監督×室井　滋　氏「映画「大コメ騒動」を語る」

開催日	出演者	会　場	参加者数
5月2日(日)	本木　克英　監督 室井　滋　氏(俳優、富山県出身)	当館ライブラリーコーナー および当館研修室101 (パブリック・ビューイング)	70名

② 本木克英監督と語る「富山県を舞台にしたこんな映画が見たい」

開催日	会　場	参加者数
6月5日(土)	当館研修室101	中止

③ トークセッション「富山からエンタテインメントを発信するには」

開催日	出演者	会　場	参加者数
6月6日(日)	本木　克英　監督 宇野津　達也　氏(俳優、脚本家、演出家) ＣＨＩＫＯ　氏(シンガー) とやまる子　氏(You Tuber)	当館研修室101	中止

④ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】 5月9日(日)、5月30日(日)、6月20日(日)

⑵企画展「まど・みちおのうちゅう―「ぞうさん」の詩人からの手紙」

会　　期／令和３年７月10日㈯～10月11日㈪
※８月18日㈯～９月12日㈰　臨時休館
※９月13日㈪終了予定を10月11日㈪まで会期延長
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社
後　　援／ＮＨＫ富山放送局
監　　修／（公財）周南市文化振興財団
協　　力／宮内庁、こぐま社、（一財）日本国際児童図書評議会（ＪＢＢＹ）、毎日新聞出版、（一財）ＮＨＫサービスセンター
担　　当／生田美秋（総括）　亀島麻衣子（主務）
観覧者数／2,362人
出品点数／241点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

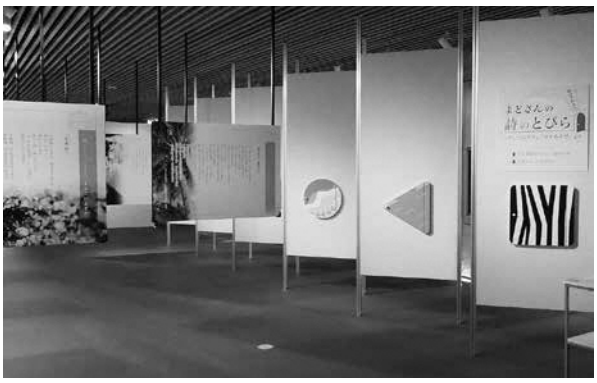
趣旨・総括

「ぞうさん」「やぎさん　ゆうびん」「一ねんせいになったら」―。誰もが一度は口ずさんだことのある童謡や詩で知られるまど･みちお。まどの童謡や詩は、かけがえのない生命を優しい眼差しでみつめ、ちいさな子どもにもわかることばで書かれています。1994（平成６）年には児童文学のノーベル賞と呼ばれる「国際アンデルセン賞・作家賞」を日本人として初めて受賞しました。生涯にわたって書き続けた、2,000を超える作品は、子どもから大人まで、また日本のみならず世界中に読者の輪を広げています。

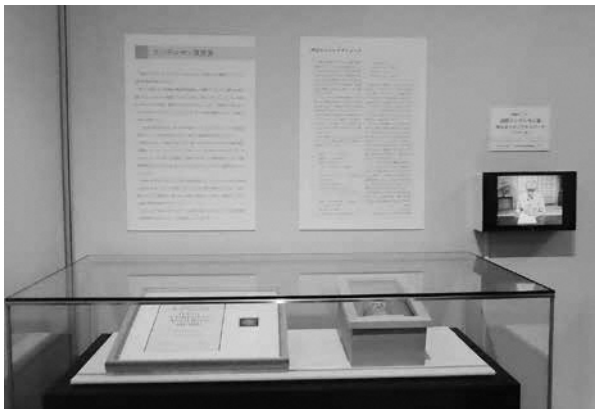
本展では、詩稿と絵画の展示のほかに、詩を題材とした絵本の原画展示、紹介映像の上映、国際アンデルセン賞の受賞挨拶、上皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読などにより、まどの独特の宇宙を紹介しました。

まずエントランスにて、まどの詩の中からメッセージ性の高い作品を取り上げ、「まどさんからの手紙」としてパネル展示しました。また、上皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読を映像で紹介しました。次に、企画展示室の「第１章 まど・みちおの生涯」では、写真パネルや詩稿､創作ノートなど貴重な資料によって、まどの生い立ちや人柄に触れるほか、国際アンデルセン賞受賞に至る軌跡を追いました。「第２章 まど・みちおの絵画」では、まどが描いた絵画を展示し、創作にむける情熱や美意識など､まどの内面に迫りました。「第３章 まど・みちおの詩と童謡」では、詩を題材とした絵本の原画展示、朗読映像の上映、高校生による詩のデザインなどを展示し、まどの作品世界の広がりを楽しむことを目指しました。

関連イベントでは、生前のまどと親交が深かった編集者の市河紀子氏による記念講演「まどさん、まどしてる」が行われました。多くの逸話と共にまどが生き生きとした姿で語られ、作家や作品に対する理解が深まりました。詩の朗読は、新型コロナ感染拡大防止のため中止になりましたが、富山県文化振興財団と共催した絵本の読み聞かせ「まど・みちおの童謡と絵本と遊ぼう！」と､「朗読と音楽の夕べ2021」は開催され、作品世界をより味わうことができました。

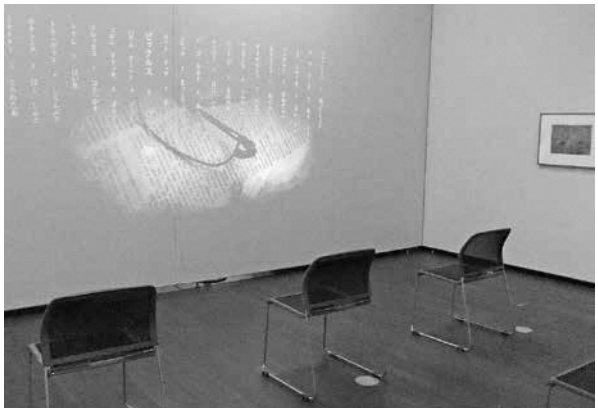

エントランス　展示風景

第１章「まど・みちおの生涯」 展示風景



国際アンデルセン賞

第２章「まど・みちおの絵画」展示風景



第３章「まど・みちおの詩と童謡」展示風景

上皇后陛下美智子さまの英訳とご朗読

□関連行事

① 記念講演「まどさん、まどしてる」

開催日	講　師	会　場	参加者数
７月11日（日）	市河　紀子　氏（続まど・みちお全詩集　編集者）	当館研修室101	43名

② 詩の朗読

開催日	朗　読	会　場	参加者数
８月28日（土）	中﨑　圭子　氏（県立新湊高等学校校長）	当館研修室101	中止

③ 絵本の読み聞かせ「まど・みちおの童謡と絵本で遊ぼう！」

開催日	共　催	会　場	参加者数
７月25日（日）	富山県文化振興財団	当館ライブラリーコーナー	小学校低学年までの 親子等37名

④ 関連行事「朗読と音楽の夕べ2021」

開催日	朗　読	演　奏	会　場	参加者数
２月５日（土）	大木　浩司　氏 （NHK 富山放送局）	熊谷　永子　氏（フルート） 藤井　亜里沙　氏（ピアノ）	当館ライブ ラリーコーナー	31名

⑤ 企画展担当者による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】７月24日（土）、8月８日（日）　※９月４日（土）は中止

⑶企画展「太宰 治　創作の舞台裏 展」

会　　期／令和３年10月30日㈯～12月20日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本放送
後　　援／富山新聞社
監　　修／安藤　宏
（東京大学 大学院人文社会系研究科 教授）
特別協力／（公財）日本近代文学館
協　　力／三鷹市、（公財）三鷹市スポーツと文化財団
担　　当／生田美秋（総括）　永井　清（主務）
生田美秋　髙田志津子
観覧者数／2,826人
出品品数／140点
印 刷 物／チラシＡ４版　　ポスターＡ１版

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

太宰治の作品は、独特のささやくような語りの文体で若い読者を捉えています。青春の苦悩から生まれた彼の文学は、文学が単なる教養ではなく、“生きる支えとなる文学”であることを実感させてくれています。

『走れメロス』『斜陽』『お伽草紙』『富嶽百景』『トカトントン』は教科書に採用されるなど、太宰治は若い世代に広く知られる、最も人気のある作家のひとりです。

2019年、太宰治の生誕110年を記念して、日本近代文学館で「太宰 治　創作の舞台裏」の展示が行われました。同展示は東京大学大学院人文社会系研究科教授の安藤宏氏の編集によって行われました。高志の国文学館では安藤氏の編集と日本近代文学館からの借用資料を中核として、三鷹市及び（公財）三鷹市スポーツと文化財団からの借用資料を加え、さらに当館のオリジナル展示を加えて再構成したものです。

導入展示では、「太宰文学入門・太宰文学再入門」として、時代を超えて読み継がれる太宰の代表作を紹介すしました。また、『女生徒』『黄金風景』『満願』などの中期の明るく、家庭的な愛情にあふれる作品にもスポットをあて、あらたな太宰作品との出会いが生まれるよう企画しました。

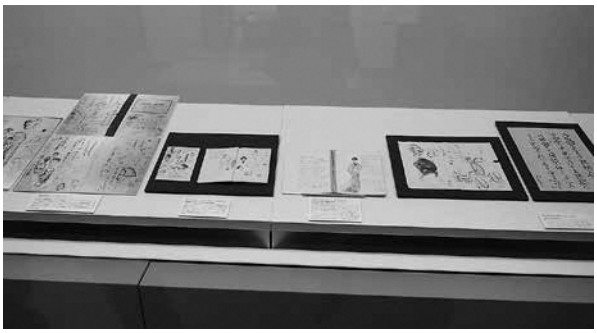
企画展示室では、第１部「太宰治のルーツ」、第２部「ノート・落書きを中心に」、第３部「原稿・書き換えの跡をたどる」、第４部「典拠･小説に用いた資料」、第５部「戦争の影」、第６部「斜陽と人間失格」の構成で近年発見されたノート、原稿、草稿、写真など「貴重資料」に焦点を絞り、資料を読み解き、「語りの文体」と称される太宰文学の魅力がどのように生み出されたのか、その“創作の舞台裏”に迫りました。各部ごとに、モニター画面での分かりやすい解説を加えました。また、近年初めてその存在が明らかになった注目の資料『お伽草紙』の完全原稿を展示しました。

さらに、太宰治作品初版本コレクションとして28冊の初版本の展示、太宰の筆による絵画の展示、書斎コーナーを設けて太宰の原稿の筆写体験ができるコーナーを設け、変化にとんだ展示を行いました。

関連イベントでは、「高校生による白熱読書と講演」と題し、本展の編集者である東京大学の安藤宏教授、県内の高校生５人を迎え、太宰作品の魅力について発表し、話し合いを行いました。また安藤氏の講演「太宰治と志賀直哉」によって太宰の世界への理解を深めました。また、富山高等専門学校准教授の近藤周吾氏による講演「『走れメロス』創作の舞台裏～古伝説とシルレルの詩と其他種々（エトセトラ）～」が開催され、太宰作品に対する独特のアプローチについて学ぶことができました。

エントランス展示「太宰文学入門・太宰文学再入門」展示風景

企画展示室内　第１部「太宰治のルーツ」　展示風景



第２部「ノート・落書きを中心に」　展示風景

第４部「典拠・小説に用いた資料」　展示風景

「お伽草紙」完全原稿

書斎コーナー　筆写体験

イベント「高校生による白熱読書」

□関連行事

① 高校生による白熱読書と講演「太宰治と志賀直哉」

開催日	出演者	内　容	会　場	参加者数
11月６日（土）	安藤　宏　氏 （東京大学 大学院人文社会系研究科 教授） 県内高校生５名 富山県立新湊高等学校生徒２名 富山県立高岡高等学校生徒２名 富山県立氷見高等学校生徒１名	県内高校生による太宰作品の白熱読書と大学教授による講評と講演	当館研修室101	23名

② 講演

開催日	出演者	演　題	会　場	参加者数
12月18日（土）	近藤　周吾　氏 （富山高等専門学校　准教授）	「走れメロス」創作の舞台裏～ 古伝説とシルレルの詩と 其他種々（エトセトラ）～	当館研修室101	30名

③ 展示担当者による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】10月31日（日）、11月20日（土）、12月19日（日）

⑷企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」（第１期）

会　　期／令和４年１月16日㈰～
３月21日㈪・㊗
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、チューリップテレビ
担　　当／生田美秋（総括）、綿引香織（主務）、
坂田更永子（回廊展示担当）
観覧者数／685人
出品点数／240点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

第１期チラシ　表

第１期チラシ　裏

趣旨・総括

近代から現代にいたるまで、富山ではさまざまな個性を持った女性作家たちがユニークな女性文学史を形成してきました。本展は会期を第１期･第２期に分け、富山の女性作家たちが作りあげてきた豊かな文学世界を紹介しました。

第１期「時代を切り開く」では、女性の社会進出が十分に進んでいなかった明治・大正・昭和初期の時代から、富山の女性文学発展の礎を築く先駆的な活躍をした作家たち４名(小寺菊子、富本一枝、澤田はぎ女、方等みゆき）をとりあげました。

本展を通じて、ふるさとの風土を背景に、自分らしく生きるために歌い、書き続けた女性作家たちの活躍に改めて光をあて、彼女たちが描き出した個性的な作品世界にふれるきっかけとなることを目指しました。

あわせて回廊展示には、「今をはばたく富山の女性作家たち」と題して、現在も新しい作品世界を生み出し続けているゆかりの作家たちについて紹介するコーナーを設けました。第１期は詩・短歌・俳句の分野で活躍中の方々を紹介しました。あわせて、富山県の歌壇、俳壇、詩壇の歴史(近代以降）を紹介するパネルを掲示しました。

第１期　時代を切り開く

第１章　新しい女性の生き方を模索する
―小寺菊子、富本一枝

第２章　詩歌に新しい風をもたらす
―澤田はぎ女、方等みゆき

回廊展示「今をはばたく富山の女性作家たち」
第１期

詩　／池田瑛子、尾山景子、小坂淑子、
三谷風子、みなもとみわこ

短歌／石垣美喜子、畠山満喜子、仲井真理子、
平岡和代、山口桂子

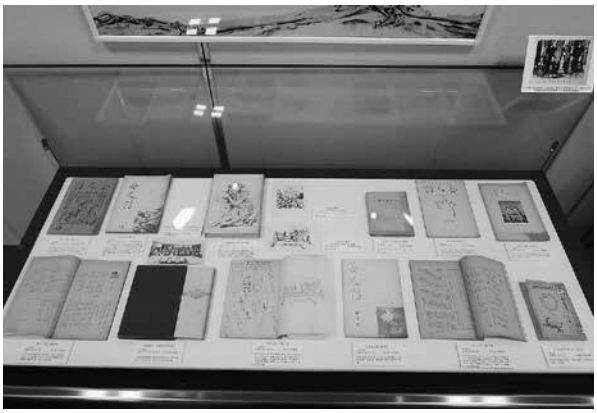
俳句／片桐久恵、川上弥生、川井城子、野中多佳子

富山県歌壇・俳壇・詩壇の歴史(近代以降)

第１章　小寺菊子のコーナー

第１章　富本一枝のコーナー

第２章　澤田はぎ女のコーナー



第２章　方等みゆきのコーナー

回廊展示

□関連行事

① 講演

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
１月30日（日）	渡邊　澄子　氏 （大東文化大学名誉教授）	「負けない女・尾竹一枝と小寺菊子―「私は私を生きる」、新しい女の先駆者―」	当館研修室101	33名

② 書道パフォーマンス

開催日	出　演	テーマ	会　場	参加者数
１月23日（日）	県立呉羽高等学校書道部	方等みゆきの詩	教育文化会館集会室	中止 （作品は展示）

③ 作品朗読会（「朗読と音楽の夕べ」連携企画）

開催日	出　演	作　品	会　場	参加者数
３月５日（土）	朗読／西　美香　氏 （チューリップテレビ）、 ピアノ／丸山　美由紀　氏	遠藤和子『オロロのいる村』	当館ライブ ラリーコーナー	41名

④ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】１月29日（土）、２月19日（土）、３月12日（土）

※同時開催「第２回文芸同人誌プチマルシェ」 主催／（公財）富山県文化振興財団

⑸企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」（第２期）

会　　期／令和４年３月30日㈫～６月６日㈰
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、チューリップテレビ
担　　当／生田美秋（総括）、綿引香織（主務）、
亀島麻衣子（回廊展示担当）
観覧者数／1,568人
出品点数／310点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判
回廊展示チラシＡ４判

第２期チラシ　表

第２期チラシ　裏

回廊展示チラシ

趣旨・総括

近代から現代にいたるまで、富山ではさまざまな個性を持った女性作家たちがユニークな女性文学史を形成してきました。本展は会期を第１期･第２期に分け、富山の女性作家たちが作りあげてきた豊かな文学世界を紹介しました。

第２期「多彩な活動の展開」では、昭和・平成を中心に幅広いジャンルの作品を発表し、富山の文学界を牽引してきた女性作家たち４名(野村玉枝､遠藤和子、辺見じゅん、木崎さと子）をとりあげました。

本展を通じて、ふるさとの風土を背景に、自分らしく生きるために歌い、書き続けた女性作家たちの活躍に改めて光をあて、彼女たちが描き出した個性的な作品世界にふれるきっかけとなることを目指しました。

あわせて回廊展示には、「今をはばたく富山の女性作家たち」と題して、現在も新しい作品世界を生み出し続けているゆかりの作家たちについて紹介するコーナーを設けました。第２期は小説・随筆・ノンフィクション等の分野で活躍中の方々を紹介しました。

第２期　多彩な活動の展開

第１章　遠藤和子　　第２章　木崎さと子
第３章　野村玉枝　　第４章　辺見じゅん

回廊展示「今をはばたく富山の女性作家たち」
第２期

大垣さなゑ、恩田陸、栗林佐知、小谷真理、
霜月りつ、杉本りえ、高山羽根子、坂東眞理子、
廣川まさき、村木美涼、室井滋、山内マリコ、
やまとけいこ

遠藤和子のコーナー

木崎さと子のコーナー

野村玉枝のコーナー

辺見じゅんのコーナー

回廊展示

□関連行事

① 講演

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
4月24日(日)	水野　真理子　氏 (富山大学学術研究部教養教育学系　准教授)	「木崎さと子の文学 ―生命・宗教・富山―」	当館研修室101	21名
5月21日(土)	畠山　満喜子　氏 (「萩の会」主宰、富山県歌人連盟理事)	「辺見じゅんの文芸の形 ―本を書く・本を作る―」	当館研修室101	37名

② インタビュー映像上映会

開催日	映像名	会　場	参加者数
4月16日(土)	遠藤和子「ふるさとに学ぶ」	当館研修室101	16名
5月14日(土)	辺見じゅん「ふるさとの風土～記憶の原型～」	当館研修室101	8名
5月28日(土)	木崎さと子「家とふるさと～癒される心～」	当館研修室101	4名

※辺見じゅん、木崎さと子の映像は、県民カレッジテレビ放送講座「言葉の彼方に　作家が語る富山の文学」（富山県民生涯学習カレッジ企画、北日本放送制作、2003年）のシリーズ。
※各回終了後に、担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）を実施。

2. 資料概況

□資料数

		印刷物（書籍･雑誌･冊子等）	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙･短冊･軸･一枚もの、その他						
～R2	購入	16,001	147	42	222	52	7	80	448	2	118	17,119
	寄贈	47,767	848	128	1,965	2,230	831	1,187	891	86	242	56,175
	製作	11	28	14	5	26	17	1	7	0	21	130
	小計（A）	63,779	1,023	184	2,192	2,309	855	1,268	1,346	88	381	73,425
R3	購入	503	39	0	0	59	0	1	5	0	0	607
	寄贈	2,073	571	0	3,443	440	61	792	6	9	71	7,466
	製作	1	1	0	2	3	0	0	0	0	0	7
	小計（B）	2,577	611	0	3,445	502	61	793	11	9	71	8,080
～R2＋R3合計		66,356	1,634	184	5,637	2,811	916	2,061	1,357	97	452	81,505

令和２年度に資料分類の見直しを行い、令和３年度の受入資料から新分類基準を適用した。
（令和２年度までの資料数の統計は、旧分類基準に依拠している）

□主な新収蔵資料

寄　贈

作者等	資料名
柏原兵三ほか	柏原兵三旧蔵資料（自筆原稿等を含む）5,685点
久泉迪雄ほか	久泉迪雄旧蔵資料　503点
柏原兵三ほか	柏原兵三関連資料　18点
郷倉千靱・和子ほか	郷倉千靱・和子による日本画、スケッチ、カット、相馬御風の書簡等112点
小泉八雲ほか	小泉八雲及び北星堂関連資料399点
翁久允	翁久允による絵画・書跡、書簡等15点

購　入

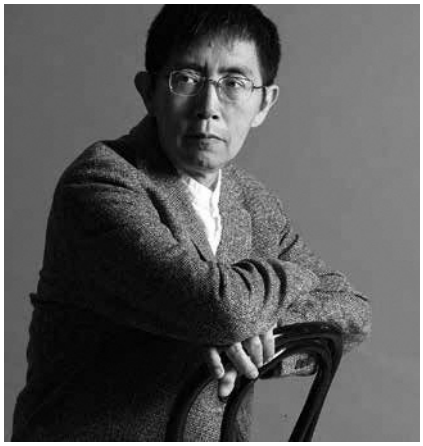
作者等	資料名
―	「青鞜」（復刻版）第1巻第1号～第6巻第2号、総目次･索引　53冊（龍渓書舎、1980年3月20日刊）
木俣修	草稿「『明星』百号大観」（200字詰原稿用紙303枚）
柏原兵三	原稿「『修業時代』とドイツの小説」
辺見じゅん	辺見じゅん直筆ノート
―	アルバム「第12回現代俳句女流賞・現代短歌女流賞・現代詩女流賞　贈賞式」

3. 教育・普及事業

令和３年度は、延期となっていた第２回大伴家持文学賞及び第２回高志の国詩歌賞贈呈式を開催したほか、文学講座、サブカルチャー講座、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントなど、多彩なイベントを実施した。

□第2回大伴家持文学賞及び第2回高志の国詩歌賞贈呈式

開催日／令和３年７月３日㈯
会　場／ANA クラウンプラザホテル富山
参加者／50名



越中において数々の秀歌を生んだ大伴家持の生誕1300年を記念して、2017年に、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞及び富山ゆかりの詩歌を対象とした高志の国詩歌賞を創設し、２回目の実施。

第２回大伴家持文学賞には中国出身の詩人・北島（ペイ・タオ）氏、第２回高志の国詩歌賞には笠木拓氏が選ばれた。新型コロナウイルス感染拡大により、北島氏ご本人の来日はかなわなかったものの、式典では、選考委員長を務めた中西進高志の国文学館館長が選考理由の報告を行い、新田八朗富山県知事から北島氏の代理で城西国際大学客員教授 田原（Tian Yuan）氏に、メダルが手渡された。その後、北島氏がビデオ出演し、受賞者あいさつ及び詩の朗読を行われた。

また、詩歌賞の贈呈式では新田八朗富山県知事から笠木拓氏に、賞状とトロフィーが手渡され、笠木氏による受賞者あいさつが行われた。

概要

○式辞
○第２回大伴家持文学賞及び
　第２回高志の国詩歌賞贈呈式
○受賞者あいさつ、詩の朗読（※ビデオメッセージ）
　北島（ペイ・タオ）氏
○受賞者あいさつ　笠木拓氏

その他のイベント

□観桜の集い2021

開催日／令和３年４月４日㈰
会　場／高志の国文学館エントランスロビー
（ステージ発表）
高志の国文学館研修室101（作品展示）

令和３年４月４日（日）、桜をめでながら春にちなんだ万葉集の歌の世界などを味わう「観桜の集い2021」を開催。

可西舞踊研究所と和田朝子舞踊研究所による洋舞に始まり、中西館長らによる特別朗唱・朗読、上野誠氏による「万葉の春、トーク」、富山県邦楽協会　青少年邦楽合奏団による箏曲など様々な演目が披露された。最後は富山県日本舞踊協会による日本舞踊で締めくくった。

その他、高志の国文学館の研修室を利用している芸術文化団体による作品展示や、富山県華道連合会によるいけばな展示が行われ、会場は多くの人で賑わった。

□大伴家持文学賞記念　詩の集い

開催日／令和４年７月25日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101
出席者／招待詩人　井坂　洋子氏
出演詩人　富山県詩人協会会員　6名
参加者／27名

大伴家持文学賞を記念し、招待詩人を交えて６人の詩人が自作の詩を朗読し、詩について語り合う「詩の集い」を開催。

その後、招待詩人の井坂氏によるミニレクチャー「室生犀星の周辺」を行った。

大伴家持文学賞を記念する３つの新企画（「詩の集い」「なでしこ忌句会」「令和　梅花の宴」）の一つとして行った。初めての開催となるイベントを通して、詩の魅力や詩の鑑賞のあり方について理解を深める機会となった。

□読書感想文サポート講座

開催日／令和３年７月31日㈯
会　場／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会東部教育事務所指導主事の吉川真理先生と、富山大学人間発達科学部・人文学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援した。

講　座	課題図書	参加者数
小学校中学年向け講座	「わたしたちのカメムシずかん：やっかいものが宝ものになった」（福音館書店）　鈴木海花・文　はたこうしろう・絵	17名
小学校低学年向け講座	「あなふさぎのジグモンタ」（ひさかたチャイルド）　とみながまい・作　たかおゆうこ・絵	19名

□第8回サブカルチャー講座（新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

芸能オフィスリレーションより講師を招聘して、アフレコチャレンジ教室及びイラスト体験教室。

講　座	参加者数
アフレコチャレンジ教室	中止
イラスト体験教室	中止

□文芸サロン

日本ペンクラブ富山の会は、県民が深く文芸を愛し、さらに創作の歓びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、高志の国文学館において文芸サロンを開設。

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が１名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメント。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形で、開催。

開催日	話題提供者、課題図書	参加者数
７／18(日)	久泉　迪雄　氏、『書斎のナチュラリスト』（奥本大三郎、岩波新書）	15名
11／21(日)	池田　瑛子　氏、『茨木のり子詩集』（谷川俊太郎選、岩波文庫）	21名
３／13(日)	中西館長、『雁』（森鷗外、新潮文庫）	24名

□観月の集い2021（新型コロナウイルス感染症の影響で中止）

弦楽三重奏や和洋折衷ジャズコンサート、朗読と音楽などのステージ発表や文学館で活動している芸術・文化団体の作品展示、いけばな展示を予定していました。

□なでしこ忌句会

開催日／令和３年10月24日回
会　場／高志の国文学館研修室101
協　力／富山県俳句連盟会長・「辛夷」主宰
中坪達哉氏
参加者／８名
観覧者／18名

越中万葉の地の詩歌の祖である大伴家持を偲び、なでしこ忌（瞿麦忌・くばくき）句会と称した公開句会を行った。

兼題を「なでしこ」「なでしこ忌」「瞿麦（くばく）（なでしこのこと）」とし、句会の形式で行った。出句の紹介、選句者の紹介、作者の紹介の順に行い、選句者、作者がコメントを出し合った。大伴家持文学賞を記念する３つの新企画（「詩の集い」「なでしこ忌句会」「令和梅花の宴」）の一つとして行った。

□高志プロジェクトの実施

開催日／令和３年12月５日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っている。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、令和３年度には３者が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定者による研究成果発表会も行われた。

【令和３年度認定者】

	代表者氏名	研究課題名
1	久保　陽子 （富山高等専門学校専任講師）	＜女性＞と＜労働＞からみた富山女性とその文化的背景 ―『大コメ騒動』、そして『あのこは貴族』へ―
2	黒﨑　真美 （富山国際大学付属高等学校、高岡看護専門学校、金沢星稜大学短期大学部非常勤講師）	富本一枝（尾竹紅吉）の作品調査
3	鈴木　道代 （創価大学学士課程教育機構特任助教）	山田孝雄の万葉集研究の方法と大伴家持作品への視点

【令和２年度認定者による研究発表】

	代表者氏名	研究課題名
1	On the Minatogawa　一般社団法人 林　美湖（氷見市　講師）	湊川の舟運を使ったイグサ製品の集積と流通について
2	加賀藩食文化史研究会 畑山　智史（東京都　大学講師、学芸員）	近世富山における水産資源の利用
3	橋本　裕之 （大阪府　元大学教授、権禰宜）	越中における中世前期の祭礼芸能、その痕跡を探る

□ミュージアムコンサート

開催日／令和４年12月９日㈰
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／52名

県にゆかりのある若手演奏家の発表の機会を創出するとともに、県民の皆さんに、身近な場所で質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、美術館や歴史的建造物などを活用したミュージアムコンサートを開催。

演奏は越戸 康恵 氏(フルート)、守護 菊野 氏(ヴィオラ)、川村 文乃 氏（ハープ)。

□朗読と音楽の夕べ2021

12月から令和４年３月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催。

令和３年度の３つの企画展に合わせた作品の朗読が行われ、第１回では、太宰治の作品を北日本放送の佐伯翔太アナウンサーが朗読した。

開催日	出演者	作　品	観覧者数
12／10 （金）	朗読：佐伯　翔太　氏（北日本放送） 演奏：廣瀬　大悟　氏（トロンボーン） 中野　悠里　氏（ピアノ）	太宰治 『女生徒』 （角川文庫）　ほか	55名
２／５ （土）	朗読：大木　浩司　氏（ＮＨＫ富山放送局） 演奏：熊谷　永子　氏（右手フルート） 藤井　亜里沙　氏（ピアノ）	まど・みちお 『いわずにおれない』 （集英社）　ほか	31名
３／５ （土）	朗読：西　美香　氏（チューリップテレビ） 演奏：丸山　美由紀　氏（ピアノ）	遠藤和子 『オロロのいる村』 （あすなろ書房）	41名

□書道パフォーマンス（新型コロナウイルス感染症の影響により、パフォーマンスは中止）

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催する予定としていた。

詩人・方等みゆきの詩「点火」をテーマに、呉羽高校書道部１年生12名が書き上げた作品を、企画展「個性きらめく富山の女性作家たち　展」（令和４年１月16日～６月６日）の開催中、エントランスに展示した。

□令和　梅花の宴

開催日／令和４年２月13日㈰
会　場／高志の国文学館研修室101
参加者／24名

元号「令和」の典拠となった万葉集巻五「梅花の宴32首」及びその序文にならい、「令和　梅花の宴」と称し、万葉ゆかりの地、高志の国での文化的催しとして行った。

大伴家持文学賞を記念する３つの新企画（「詩の集い」「なでしこ忌句会」「令和　梅花の宴」）の一つとして行った。富山県歌人連盟の推薦による参加者21名が一人２首を、朗詠、朗誦、朗読等、自由な形で発表した。

□高校生による朗読会（新型コロナウイルスの影響により中止）

高校生に日頃の練習の成果を発表いただくとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力と可能性を再発見していただくため、高校生による朗読会を開催予定でした。

□令和3年度文学講座

令和３年度の文学講座は、「大学連携シリーズ・ヘルン文庫特別講座」、「郷土と文化シリーズ」及び「越中万葉・詩歌シリーズ」を開催した。

大学連携シリーズ・ヘルン文庫特別講座　　上段は研修室での受講者数、（ ）内はオンライン受講者数

開催日	講座名	講　師	受講者数
５／８（土）	富山県の水害と地形	富山大学学術研究部 都市デザイン学系准教授 立石　良　氏	42名
５／29（土）	クレヨンしんちゃんは子どもに悪影響なのか？ ―漫画やアニメと子どもの関わりを考える―	富山大学学術研究部 教育学系准教授 西館　有沙　氏	22名
６／13（日）	「富山のくすり・薬都とやま」	富山大学薬学部長 学術研究部薬学・和漢系教授 酒井　秀紀　氏	23名 （22名）
６／26（土）	江戸庶民の文字学習	富山大学学術研究部 教育学系准教授 中村　只吾　氏	31名 （17名）
７／４（日）	『怪談』について考える ―小泉八雲『怪談』の「怪」とは何か―	富山大学学術研究部 人文科学系教授 中島　淑恵　氏	24名 （24名）

郷土と文化シリーズ

開催日	講座名	講　師	受講者数
10／23（土）	南原繁の「時間よ、止まれ！君は美しい！」	富山国際大学子ども育成学部教授 大藪　敏宏　氏	16名
11／27（土）	古文書でたどる椎名道三の生涯と事績	越中史壇会会員 宮本　幸江　氏	24名
12／12（日）	映像の時代を切り開いた男 吉澤商店主・河浦謙一の足跡	国立映画アーカイブ主任研究員 入江　良郎　氏	28名

越中万葉・詩歌シリーズ

開催日	講座名	講　師	受講者数
１／22（土）	鴻巣盛廣の万葉研究が残したもの	高岡市万葉歴史館 課長補佐研究員 関　隆司　氏	25名
２／12（土）	戦場からの手紙と作品の風土性	歌人 恩田　英明　氏	19名
３／20（日）	笑いとユーモアから見た川柳の魅力	富山国際大学現代社会学部教授 大谷　孝行　氏	34名

□映画パネル展

会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

高志の国文学館では、富山県を舞台にした映画等、県ゆかりの映画の公開に合わせてライブラリーコーナーにおいてパネル展を開催。パネル展では、映画で使用された台本や映画紹介、ロケ地マップ、映画シーンのパネルなどを展示。

○映画「大コメ騒動」
○映画「鳩の撃退法」
○映画「牛首村」

□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／令和３年10月27日㈬～11月５日㈮
会　場／高志の国文学館研修室101

このコンクールは、「ふるさと文学」に親しみ、郷土を一層深く理解しようとする機運を高めることを目的に、県内の中学校、高等学校、高等専門学校（３年まで）、特別支援学校（中学・高等部）を対象に募集した。

□文学館教育・啓発アウトリーチ事業

著名な作品や富山ゆかりの作品のパネルを小・中・高校等向けに貸出。

令和３年度は新たに、詩を通して日本語の美しさにふれ、豊かな心が育つよう選んだ詩30点をパネルで紹介する「詩をよむ歓び・楽しみ」を作成し、パネルを貸出。

またライブラリーコーナーでは、「詩をよむ歓び・楽しみ」パネルの一部を展示紹介。

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年６月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立された。

令和３年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、主要イベントである県内バスツアー及び研修旅行を中止とした。文学館内レストラン「シェ・ヨシ」の店内飲食の制限に伴い、友の会入会時または更新時に配布しているドリンクサービス券でお菓子と引換えできるサービスを行った。

また令和３年度の事業実施が困難であったことから会員の１年間の会費を免除とした。

会員数　488名（令和４年３月31日現在）

一般会員	347		
法人会員	11		
５年会員（個人）	111	５年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	14	賛助会員（法人）	2
学生会員	1		

会　費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
５年会員（個）	10,000円
５年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特　典

・文学館ニュースや各種行事案内の配布
・文学館及び友の会主催行事への優先参加
・文学館が発行する図録等の割引購入
・文学館内レストランの飲み物代優待

令和３年度事業

【県内バスツアー】（中止）

・県内映画ロケ地訪問
　～富山の自然、文化施設巡り～
　令和３年６月
　富山県［立山博物館］、眼目立山寺、大コメ騒動ロケ地など
・富山の自然と美術館を愉しむ
　～黒部峡谷トロッコ電車・下山芸術の森発電所美術館～
　令和３年９月
　黒部峡谷トロッコ電車、黒部川電気記念館、下山芸術の森発電所美術館など

【研修旅行】（中止）

「新潟文学ゆかりの地を訪ねて」
　令和３年５月～６月
　ドナルド・キーン・柏崎、旧齋藤家別邸、會津八一記念館、今代司酒造、良寛記念館、小川未明文学館ほか

「巨大な書架に囲まれた図書空間“角川武蔵野ミュージアム”と近代日本経済の父 渋沢栄一のゆかりの地を訪ねて」
　令和３年11月～令和４年３月
　角川武蔵野ミュージアム、ところざわサクラタウン、武蔵野樹林、さいたま文学館、旧渋沢邸、渋沢栄一記念館ほか

【映画監督　本木克英 展 スライドビュー＆本木監督とのカフェタイム】（中止）
　令和３年６月５日（土）

理事会

令和３年５月31日（月）付け書面で実施

Ⅲ　管理･運営

1．利用状況

⑴入館者数・観覧者数

区　分	会　期	日　数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者計	1日あたり
映画監督　本木克英 展	R3.4.29～R3.6.21	47	10,104	2,037	1,727	3,764	80
まど・みちおのうちゅう―「ぞうさん」の詩人からの手紙	R3.7.10～R3.8.17 R3.9.13～R3.10.11	56	11,327	2,362	2,032	4,394	78
太宰 治　創作の舞台裏 展	R3.10.30～R3.12.20	44	12,087	2,826	2,276	5,102	116
個性きらめく富山の女性作家たち 展　第１期	R4.1.16～R4.3.21	54	10,252	685	686	1,371	25
常設展のみ		78	15,098		653	653	8
常設展入れ替え（ライブラリーのみ）							
合　計		279	58,868	7,950	7,374	15,324	55
休館日		86					

開館日数／279日　うち　臨時開館　1日（４月30日）
休館日数／86日　うち　臨時休館　26日（新型コロナウイルス感染症対応によるもの：８月18日～９月12日）
開館時間／９時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）
休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月29日から１月３日）

⑵研修室の利用状況

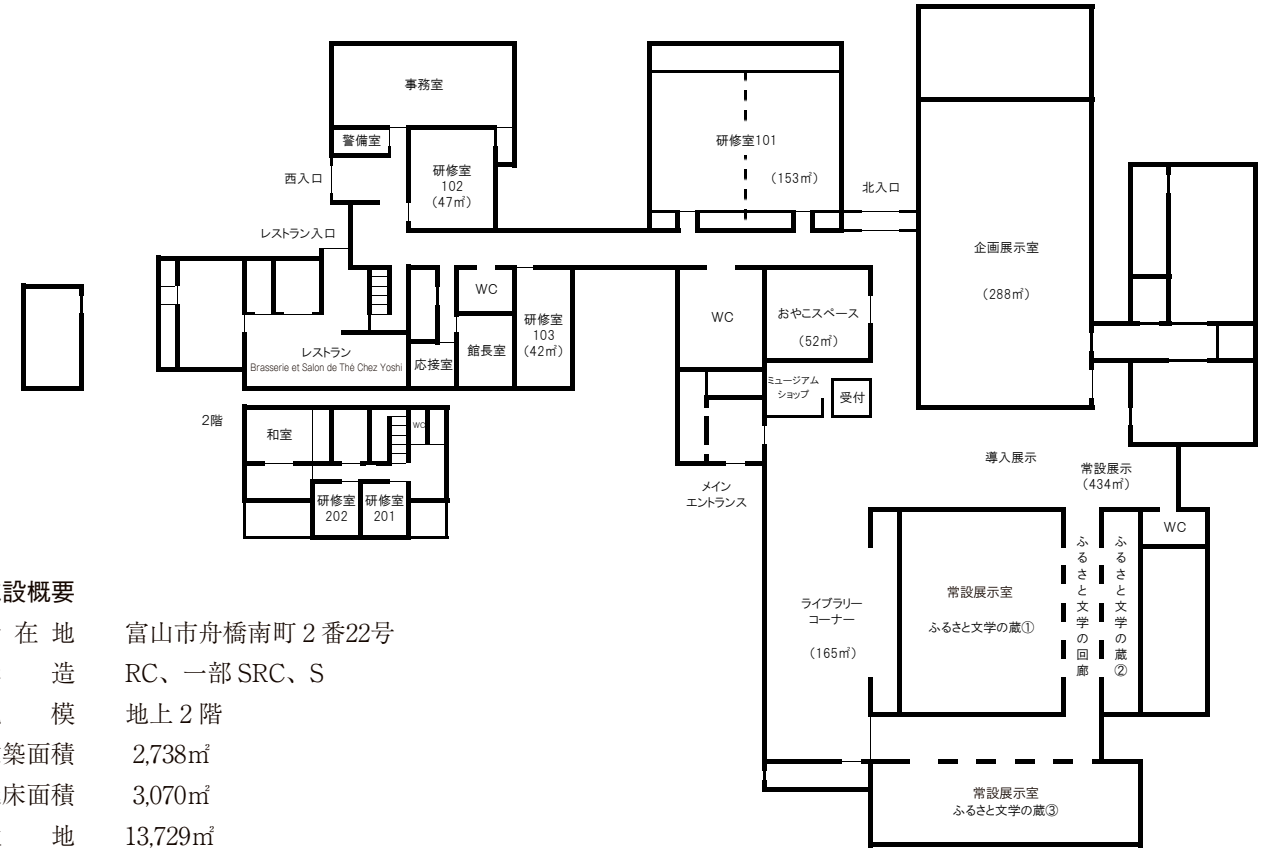
年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
3	4月	26	4	43	353	23	106	35	224
	5月	27	4	19	288	27	108	36	216
	6月	25	5	34	167	17	80	35	220
	7月	26	5	17	380	20	98	43	224
	8月	14	17	12	59	8	31	25	134
	9月	14	16	9	32	10	51	19	93
	10月	27	4	30	328	19	95	37	263
	11月	24	6	29	426	27	126	35	222
	12月	24	7	23	166	20	91	38	279
4	1月	24	7	20	256	9	51	36	196
	2月	22	6	15	152	9	42	31	177
	3月	26	5	32	264	15	66	32	198
合　計		279	86	283	2,871	204	945	402	2,446

年	月	研修室201		研修室202		和　室		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
3	4月	21	48	12	29	22	62	156	822
	5月	16	37	10	19	22	61	130	729
	6月	17	37	7	16	27	73	137	593
	7月	21	38	3	9	29	81	133	830
	8月	13	30	3	8	19	50	80	312
	9月	16	35	0	0	14	41	68	252
	10月	18	39	10	12	26	63	140	800
	11月	19	43	8	15	20	62	138	894
	12月	19	44	13	25	23	62	136	667
4	1月	15	36	5	16	17	48	102	603
	2月	14	43	9	15	12	35	90	464
	3月	20	48	6	12	24	64	129	652
合　計		209	478	86	176	255	702	1,439	7,618

⑶年度別利用状況

区　分	開館日数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者合　計	1　日当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	279	108,138	13,839	16,260	30,099	108	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
平成31年度・令和元年度	308	116,548	27,456	27,497	54,953	178	2,024	13,466
令和2年度	287	62,154	9,384	8,362	17,746	62	1,322	6,993
令和3年度	279	58,868	7,950	7,374	15,324	55	1,439	7,618
合　計	2,906	1,030,320	173,136	196,089	369,225	1,288	16,340	121,834

2. 施設の概要



施設概要

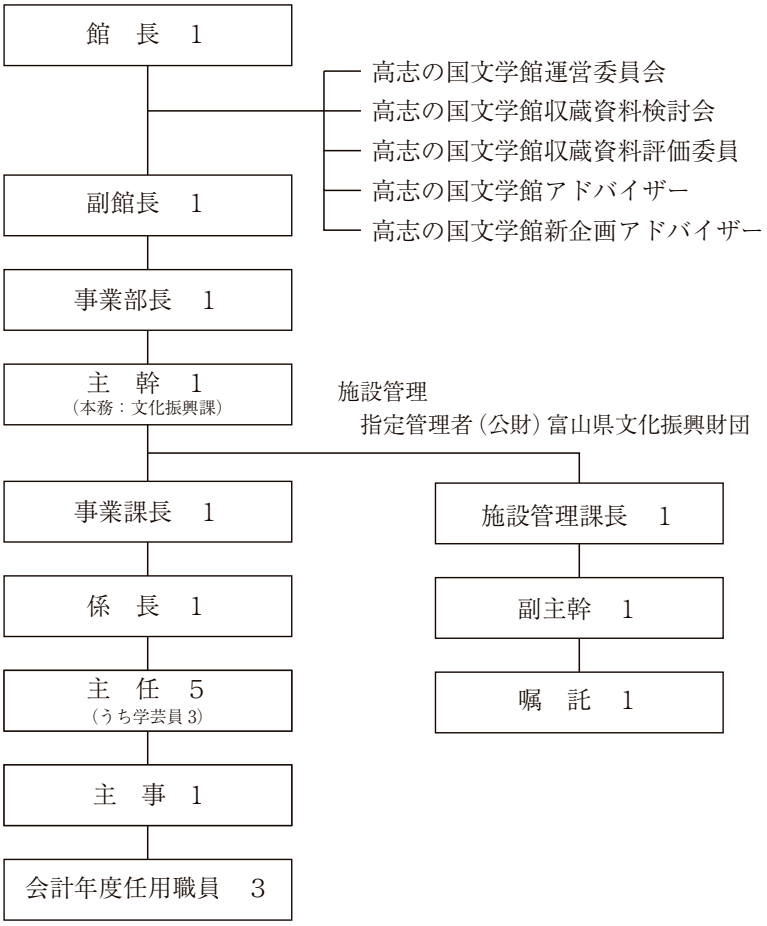
所 在 地	富山市舟橋南町２番22号
構　　造	RC、一部 SRC、S
規　　模	地上２階
建築面積	2,738㎡
延床面積	3,070㎡
敷　　地	13,729㎡
設　　計	シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工	日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社　ほか
総 工 費	1,947,135,080円
工　　期	起工　平成23年７月４日
	竣工　平成24年７月３日

受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年６月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年５月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年１月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年４月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
ＢＳＣ賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

令和4年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年７月～平成26年度	（公財）富山県文化振興財団
平成27年度～平成31年度	（公財）富山県文化振興財団
令和２年度～令和６年度	（公財）富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏　名	備　考
館　長	中　西　進	
副館長	森　田　真　己	
事業部長	生　田　美　秋	
主　幹	朝　山　弘　康	本務　文化振興課主幹
事業課長	永　井　清	
係　長	谷　口　万里子	兼務　文化振興課
主　任	亀　島　麻衣子	
主　任	綿　引　香　織	学芸員
主　任	大川原　竜　一	学芸員
主　任	小　林　加代子	学芸員
主　任	林　優美子	兼務　文化振興課
主　事	髙　瀬　慎之介	兼務　文化振興課
会計年度任用職員	坂　田　吏永子	
会計年度任用職員	高　田　志津子	
会計年度任用職員	松　永　美　和	
施設管理課長	広　田　英　貴	
副主幹	高　木　隆　行	
嘱　託	魚　屋　美智乃	

4. 組織

令和4年3月31日現在

□高志の国文学館運営委員会委員

氏　　名	役　職　等
上田　洋一	富山県歌人連盟会長
上野　　誠	國學院大學文学部日本文学科教授（特別専任）
木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
國香真紀子	富山県小学校長会副会長
飛田　久子	富山県婦人会副会長
中垣　理子	世田谷文学館学芸部長
羽根　　由	（株）ＰＣＯ取締役会長、富山経済同友会常任幹事
松浦　憲秀	日本青年会議所富山ブロック協議会長
三谷美栄子	公募委員（パッチワーク講師）
麦野　英順	（株）北陸銀行代表取締役会長、富山経済同友会代表幹事
本島　直美	富山県ＰＴＡ連合会副会長

□高志の国文学館収蔵資料検討会委員

氏　　名		役　職　等
委　　員	木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
	中村　只吾	富山大学人間発達科学部准教授
	中井　敏郎	東亜薬品（株）代表取締役会長
	久泉　迪雄	富山県歌人連盟顧問
	山崎　一穎	全国文学館協議会会長

□高志の国文学館アドバイザー

氏　　名	役　職　等
篠田　正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄Ⓐ	漫画家

□高志の国文学館新企画アドバイザー

氏　　名	役　職　等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
菓子　　浩	ドラマプロデューサー
柏原光太郎	文芸宣伝
高成麻畝子	在京テレビ局・海外事業部
本木　克英	映画監督
山内マリコ	作家

Ⅳ 資　　料

沿革

年　月　日	事　　項
平成24年７月６日	開館
７月６日	開館記念展「大伴家持と越中万葉―風土とこだまする家持の心」開催
７月15日	入館者1万人達成
８月８日	**秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館**
12月８日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代―小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道―」開催
平成25年２月３日	**入館者10万人達成**
３月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪―大自然に生きる母と子の物語―」開催
４月７日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
５月26日	入館者15万人達成
７月７日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
８月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	**入館者20万人達成**
10月18日	**高円宮妃殿下ご来館**
11月３日	中西進館長　文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝―棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長　富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会　開催
平成26年３月20日	企画展「まんが家　藤子・Ｆ・不二雄のＳＦ（すこし・ふしぎ）」開催
４月６日	入館者25万人達成
４月26日	棟方志功未公開作品特別展示　開催
７月26日	企画展「風の盆　深奥の心をさぐる」開催
８月４日	**入館者30万人達成**
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学―うつりゆく富山の歴史の中で―」開催
平成27年１月７日	ギャラリー展「「冷光文庫」展―富山におり立った「雪の女王」を訪ねて―」開催
１月28日	企画展「川の文学　美しきふるさと―富山の川をめぐる文学と美術の交響―」開催
３月13日	企画展「三禅定の旅―立山・白山・富士山をめぐる―」開催
５月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション　妖怪がひそむ富山の民話」開催
５月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明　挿絵原画展」開催
７月11日	企画展「あの日、青い空から―久世光彦の人間主義」開催
７月19日	**入館者40万人達成**
９月９日	ギャラリー展「「海」物語　憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情―田中冬二へのいざない」開催
平成28年１月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸―ミステリー文学でたどる―」開催
３月21日	企画展「夢二の旅―たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
６月３日	ギャラリー展「富山映画展―スクリーンの中の人と風景―」開催
７月３日	**入館者50万人達成**
７月９日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎―九転十起の生涯」開催
平成29年１月14日	企画展「知られざる作家の世界―書簡から直筆原稿、書画まで」開催
３月19日	企画展「官人 大伴家持―困難な時代を生きた良心」開催
５月29日	**天皇皇后両陛下ご視察**
６月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	**入館者60万人達成**
７月23日	企画展「おわらと林秋路―風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝―人間のあたたかさと、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二　音楽を描く」開催

年　月　日	事　　項
平成30年３月18日	企画展「歌人 大伴家持―現代と響き合う詩心」開催
５月14日	**入館者70万人達成**
６月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
８月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衛―世界の水平線を見つめて」開催
平成31年１月６日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
３月17日	企画展「家持発見―響き合う詩歌と絵画」開催
４月27日	**入館者80万人達成**
令和元年５月25日	企画展「宮沢賢治　童話への旅」開催
７月27日	企画展「谷川俊太郎の宇宙」開催
10月６日	特別展「藤子不二雄Ⓐ展―Ⓐの変コレクション―」開催
令和２年１月19日	企画展「生誕110年　中島敦展」開催
２月16日	**入館者90万人達成**
４月11日	企画展「生誕170年　ラフカディオ・ハーンの共感力―発見、探求、そして発信へ」開催
７月26日	企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」開催
９月20日	企画展「米国アカデミー賞監督　滝田洋二郎 展」開催
令和３年２月６日	企画展「久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”」開催
４月29日	企画展「映画監督　本木克英 展」
７月10日	企画展「まど・みちおのうちゅう―「ぞうさん」の詩人からの手紙」
10月２日	**入館者100万人達成**
10月30日	企画展「太宰　治　創作の舞台裏 展」
令和４年１月16日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第１期
３月30日	企画展「個性きらめく富山の女性作家たち 展」第２期

V 関係法令

高志の国文学館条例

平成23年９月28日
富山県条例第41号
改正　平成24年６月29日条例第38号
平成26年３月26日条例第21号
平成28年３月25日条例第22号
平成31年３月15日条例第９号
平成30年３月26日条例第19号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

（趣旨）

第１条　この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（位置）

第３条　文学館は、富山市に置く。

（事業）

第４条　文学館は、次に掲げる事業を行う。

⑴　文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。

⑵　文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。

⑶　文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。

⑷　文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。

⑸　文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑹　前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第５条　知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第６条　前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

⑴　文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

⑵　第13条第１項の規定による専用使用の承認に関する業務

⑶　第15条第１項に規定する使用料の徴収に関する業務

⑷　その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務

（休館日）

第７条　文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

⑴　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

⑵　休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

⑶　12月29日から翌年の１月３日までの日

（平28条例22・一部改正）

（開館時間）

第８条　文学館の開館時間は、午前９時30分から午後６時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前９時30分から午後９時まで、駐車場の開館時間については午前９時から午後９時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

（平24条例38・平28条例22・一部改正）

（入館の拒否及び制限）

第９条　指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は文学資料（次条第１項第２号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

２　指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

（遵守事項等）

第10条　文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

⑵　施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

⑶　指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

⑷　その他知事が特に指示した事項

2　知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

（常設展示観覧料及び企画展示観覧料）

第11条　常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2　企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（特別観覧）

第12条　文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2　前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3　第１項の承認を受けた者は、別表第１に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（専用使用の承認等）

第13条　文学館の施設のうち別表第１に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第９条第１項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3　第１項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料及び駐車料金）

第14条　前条第１項の承認を受けた者（以下「専用使用者」という。）は別表第１に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第２に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の徴収方法）

第15条　常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2　使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の減免）

第16条　知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（使用料の還付）

第17条　既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（専用使用の承認の取消し等）

第18条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第１項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

⑴　専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

⑵　専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第１項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

⑶　専用使用者が第13条第３項の規定による承認の条件に違反したとき。

⑷　その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

（高志の国文学館運営委員会）

第19条　文学館に高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2　委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条　委員会は、委員20人以内で組織する。

2　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3　委員は、再任されることができる。

（平28条例22・一部改正）

第21条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

2　委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、平成23年10月１日から施行する。ただし、第５条から第21条まで、附則第２項及び別表第１の規定は、規則で定める日から施行する。

（平成24年規則第40号で附則第１項ただし書に規定する規定は、平成24年７月６日から施行）

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料の特例）

2　前項の規則で定める日から起算して２年を経過する日までの間における別表第１の４の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

（平24条例38・平26条例21・一部改正）

附　則（平成24年条例第38号）

（施行期日）

1　この条例は、平成24年７月６日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日から平成25年３月31日までの間における第６条の規定の適用については、同条第１号中「施設」とあるのは「施設（駐車場を除く。）」と、同条第３号中「使用料」とあるのは「使用料（駐車料金を除く。）」とする。

附　則（平成26年条例第21号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成26年４月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成28年条例第22号）

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成30年条例第19号）

この条例は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年条例第９号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成31年10月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第１（第11条、第12条、第13条、第14条関係）

（平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例９・一部改正）

1　常設展示観覧料

区　分	金額（１人１回につき）
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考　小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2　企画展示観覧料

１人１回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3　特別観覧料

１回１点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4　施設使用料

区　分		使用時間３時間までの金額	超過時間１時間の金額
研修室１	全部使用	14,420円	3,610円
	２分の１使用	7,170円	1,790円
研修室２		4,430円	880円
研修室３		3,960円	780円
研修室４		1,420円	290円
研修室５		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1　使用時間１時間未満の端数は、１時間として計算する。

2　使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第２（第14条関係）

（平24条例38・追加、平31条例９・一部改正）

種　別	単　位	金　額
基本料金	入場した時から１時間までにつき１台	330円
加算料金	入場した時から１時間を超える時間30分までごとにつき１台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年７月５日
富山県規則第43号
改正　平成28年３月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入室時間）

第２条　高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前９時30分から午後５時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（平28規則32・一部改正）

（特別観覧の承認申請）

第３条　条例第12条第１項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第４条第１号に規定する文学資料をいう。第６条及び第９条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の７日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第１号）を知事に提出するものとする。

（平28規則32・一部改正）

（専用使用の承認申請）

第４条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第２号）を指定管理者に提出するものとする。

２　前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第１項において「専用使用日」という。）の３月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

（専用使用の変更）

第５条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第８条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

２　専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

（平28規則32・一部改正）

（観覧料の減免）

第６条　条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　条例別表第１の１の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合　観覧料の全額

⑵　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第７条第１項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑶　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者１人につき１人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑷　療育手帳制度について（昭和48年９月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑸　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑹　70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合　常設展示観覧料の全額

⑺　前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合　知事が必要と認める額

２　前項第１号又は第２号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第３号）を知事に提出することにより、同項第３号から第５号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第６号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足りる書類の確認により、同項第７号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

（平28規則32・追加）

（駐車場を使用できる自動車）

第７条　文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第３条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ５メートル以下、幅２メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第６条繰下）

（原状回復及び点検）

第８条　専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第７条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第９条　文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第８条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

第10条　高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第９条繰下）

（細則）

第11条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

附　則

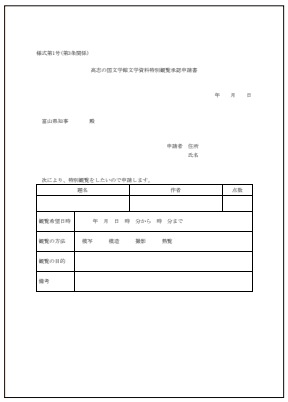
この規則は、平成24年７月６日から施行する。

附　則（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

１　この規則は、平成28年４月１日から施行する。

様式第１号（第３条関係）


様式第1号(第3条関係)

高志の国文学館文学資料特別閲覧承認申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

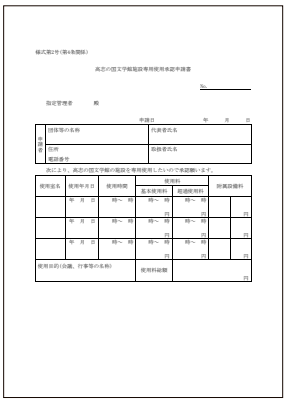
申請者　住所
氏名

次により、特別閲覧をしたいので申請します。

題名	作者	点数

閲覧希望日時	年　月　日　時　分から　時　分まで
閲覧の方法	視写　模造　撮影　熟覧
閲覧の目的	
備考	

様式第２号（第４条関係）


様式第2号(第4条関係)

高志の国文学館施設等専用使用承認申請書

No.

指定管理者　　殿

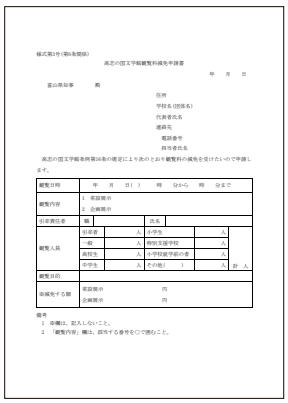
申請日　　年　月　日

申請者	団体等の名称	代表者氏名
	住所 電話番号	担当者氏名

次により、高志の国文学館の施設を専用使用したいので承認願います。

使用名	使用年月日	使用時間	使用料 基本使用料	超過使用料	附属設備料
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円	円
使用目的(公園、行事等の名称)			使用料総額		円

様式第３号（第６条関係）


様式第3号(第6条関係)

高志の国文学館観覧料減免申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

住所
学校名(団体名)
代表者氏名
連絡先
電話番号
担当者氏名

高志の国文学館条例第16条の規定により次のとおり観覧料の減免を受けたいので申請します。

観覧日時	年　月　日(　)　時　分から　時　分まで					
観覧内容	1　常設展示 2　企画展示					
引率責任者	職		氏名			
観覧人員	引率者	人	小学生	人	計　人	
	一般	人	特別支援学校	人		
	高校生	人	小学校就学前の者	人		
	中学生	人	その他(　)	人		
観覧目的						
免減免する額	常設展示	円				
	企画展示	円				

備考
1　※欄は、記入しないこと。
2　「観覧内容」欄は、該当する番号を○で囲むこと。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年７月５日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

（趣旨）

第１条　この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第４条第１項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第１号）第３条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

（勤務時間）

第２条　職員の勤務時間は、午前８時30分から午後５時15分までとする。

２　高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

（週休日及び勤務時間の割振り）

第３条　館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

２　職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

（休憩時間）

第４条　職員の休憩時間は、１時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附　則

この訓令は、平成24年７月６日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年７月５日
富山県告示第317号
改正 平成26年３月26日告示第148号
平成31年３月29日告示第169号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第１の４の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年７月６日から施行する。

品　名	単　位	金　額
ビデオプロジェクター（スクリーン付）	1式	2,980 円
拡声装置（マイク付）	1式	2,540 円

備考　この表に掲げる金額は使用時間３時間についての額とし、使用時間３時間未満の端数は３時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年４月１日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄

平成31年10月１日から施行する。

令和3年度 高志の国文学館 年報

令和４年９月30日発行
編　集　高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
印　刷　北日本印刷株式会社
発　行　高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。